

安全データシート

作成日 2010年11月10日
最新改定 2022年5月19日

1. 化学物質等及び会社情報

化学物質等の名称: 応急パンク修理液
製品コード: OPS-fb1
品番: 27220 / 27201
会社名: マルニ工業株式会社
住所: 大阪府大阪市生野区舎利寺 3丁目11番1号
電話番号: 06-6716-4171 FAX番号: 06-6715-1700
緊急連絡電話番号: 06-6716-4171
メールアドレス: sales@maruni-ind.co.jp
推薦用途及び使用上の制限: 自動車用タイヤの応急パンク修理液

2. 危険有害性の要約

GHS分類
GHS分類では区分に該当しない

3. 組成、成分情報

単一製品・混合物の区分: 混合物
化学名又は一般名: バイク・自動車用タイヤのパンク予防液
成分、含有量、化学構造式、官報公示整理番号及びCAS No.:

	成分名	重量%	官報公示整理番号 (化審法・安衛法)	CAS No.	備考
1	プロピレングリコール	45～50	(2)-234	57-55-6	
2	水	40～45	該当せず	7732-18-5	
3	ポリエステル粒	1～5	非公開	非公開	
4	セルロース	1～5	該当せず	9004-34-6	
5	ポリアミド粒	1～5	(7)-360	25038-74-8	

危険有害成分

労働安全衛生法 通知物質

該当無し

PRTR法 第1種指定化学物質

該当無し

4. 応急措置

吸入した場合: 被災者を新鮮な空気のある場所に移動し、呼吸しやすい姿勢で休息させること。
気分の悪い時は、医師の手当て、診断を受けること。

皮膚に付着した場合: 皮膚を速やかに洗浄すること。
汚染された衣服を脱ぐこと。皮膚を速やかに洗浄すること。多量の水と石けんで洗うこと。
皮膚刺激が生じた場合、医師の手当て、診断を受けること。

目に入った場合: 水で数分間、注意深く洗うこと。次に、コンタクトレンズを着用していて容易に外せる場合は外すこと。その後も洗浄を続けること。
眼の刺激が持続する場合、気分が悪い時は、医師の診断、手当てを受けること。

飲み込んだ場合: 口をすすぐこと。無理に吐かせないこと。すぐに医師の手当て、診断を受けること。

予想される急性症状及び遅発性症状: 情報無し。

応急措置をする者の保護: データなし

5. 火災時の措置

消火剤:	周辺火災の種類に応じて適切な消火剤を用いる。
特有の危険有害性:	火災によって刺激性、毒性、又は腐食性のガスを発生するおそれがある。
特有の消火方法:	危険でなければ火災区域から容器を移動する。 安全に対処できるならば、着火源を除去すること。
消火を行う者の保護:	消火作業の際は、適切な空気呼吸器を含め完全な防護服(耐熱性)を着用する。

6. 漏出時の措置

人体に対する注意事項、保護具及び緊急時措置:	関係者以外の立ち入りを禁止する。 作業者は適切な保護具(『8. ばく露防止及び保護措置』の項を参照)を着用し、眼、皮膚への接触や吸入を避ける。
環境に対する注意事項:	河川等に排出され、環境へ影響を起ささないように注意する。
回収、中和:	少量の場合: 漏えい物は乾燥土、砂や不燃材料で吸収し、あるいは覆って密閉できる容器に回収する。 大量の場合: 防護囲いをし、後で廃棄処理する。
封じ込め及び浄化の方法・機材:	危険でなければ漏れを止める。

7. 取り扱い及び保管上の注意

取り扱い	
技術的対策:	『8. ばく露防止及び保護措置』に記載の設備対策を行い、保護具を着用する。
局所排気・全体換気:	『8. ばく露防止及び保護措置』に記載の局所排気、全体換気を行なう。
安全取り扱い注意事項:	接触、吸入又は飲み込まないこと。眼・皮膚に付けないこと。 取り扱い後は良く手を洗うこと。
接触回避:	『10. 安定性及び反応性』を参照。
保管	
技術的対策:	情報無し
保管条件:	容器を密閉して、換気の良い冷暗所で保管すること。
混触危険物質:	『10. 安定性及び反応性』を参照。
容器包装材料:	包装、容器の規制はないが密閉式の破損しないものに入れる。

8. ばく露防止及び保護措置

許容濃度、管理濃度(職業的ばく露限界値、生物学的限界値)

	成分名	重量%	管理濃度 (厚生労働省)	許容濃度 (日本産衛学会2001年)	ACGIH (2001年版)	
					TLV-TWA	TLV-STEL
1	プロピレングリコール	45~50	未設定	未設定	未設定	未設定
2	水	40~45	未設定	未設定	未設定	未設定
3	ポリエステル粒	1~5	未設定	未設定	未設定	未設定
4	セルロース	1~5	未設定	未設定	未設定	未設定
5	ポリアミド粒	1~5	未設定	未設定	未設定	未設定

設備対策: この物質を貯蔵ないし取り扱う作業場には洗眼器と安全シャワーを設置すること。
高温工程でミストが発生する時は、空気汚染物質を管理濃度・許容濃度以下に保つために換気装置を設置する。

保護具

呼吸器の保護具:	適切な呼吸器保護具を着用すること。
手の保護具:	適切な保護手袋を着用すること。
眼の保護具:	適切な眼の保護具を着用すること。 保護眼鏡(普通眼鏡型、側板付き普通眼鏡型、ゴーグル型)
皮膚及び身体の保護具:	適切な顔面用の保護具を着用すること。
衛生対策:	取り扱い後はよく手を洗うこと。

9. 物理的及び化学的性質

物理的状態、形状、色など:	乳白色の粘調な液体
pH:	7~8
臭い:	データなし
融点・凝固点:	データなし
沸点、初留点及び沸騰範囲:	(成分データ); 187°C
引火点(密閉式):	(成分データ); 99°C
爆発範囲:	(成分データ); 下限 2.6vol%、 上限 12.5vol%
蒸気圧(20°C):	(成分データ); 10.7Pa
蒸気密度(空気=1):	データなし
比重(密度):	(製品データ); 1.03(計算値)
溶解度:	データなし
オクタノール/水分配係数:	データなし
自然発火温度:	データなし
分解温度:	データなし
蒸発速度(酢酸ブチル=1):	データなし
粘度:	1,500~2,500s・Pa(安定時)
備考:	(成分データ)はプロピレングリコールの参考値。

10. 安定性及び反応性

安定性:	通常の温度、圧力下では安定である。
危険有害反応可能性:	自己反応性はない。
避けるべき条件:	情報無し
混触危険物質:	情報無し
危険有害な分解生成物:	情報無し

11. 有害性情報

急性毒性:

(別表) 急性毒性(経口、経皮及び吸入)

	成分名	重量%	急性毒性 (経口)	急性毒性 (経皮)	急性毒性 (吸入:ガス)	急性毒性 (吸入:蒸気)
1	プロピレングリコール	45~50	区分に該当しない	区分に該当しない	区分に該当しない	分類できない
2	水	40~45	分類できない	分類できない	区分に該当しない	分類できない
3	ポリエステル粒	1~5	分類できない	分類できない	区分に該当しない	分類できない
4	セルロース	1~5	分類できない	分類できない	区分に該当しない	分類できない
5	ポリアミド粒	1~5	分類できない	分類できない	区分に該当しない	分類できない

経口 (製品データ)は、(区分に該当しない)に分類される。

経皮 (製品データ)は、(区分に該当しない)に分類される。

吸入(ガス) (製品データ)は、(区分に該当しない)に分類される。

吸入(蒸気) (製品データ)は、(分類できない)に分類される。

皮膚腐食性/刺激性: (成分データ)は、皮膚刺激(区分に該当しない)に分類されている。

(製品データ)は、皮膚刺激(区分に該当しない)に分類される。

眼に対する重篤な損傷/眼刺激性: (成分データ)は、眼刺激(区分に該当しない)に分類されている。

(製品データ)は、眼刺激(区分に該当しない)に分類される。

呼吸器感作性: (成分データ)は、呼吸器感作性(分類できない)に分類されている。

(製品データ)は、呼吸器感作性(分類できない)に分類される。

皮膚感作性: (成分データ)は、(分類できない)に分類されている。

(製品データ)は、皮膚感作性(分類できない)に分類される。

生殖細胞変異原性: (成分データ)は、(分類できない)に分類されている。

(製品データ)は、(分類できない)に分類される。

発ガン性: (成分データ)は、(分類できない)に分類されている。

(製品データ)は、(分類できない)に分類される。

生殖毒性:	(成分データ)は、(分類できない)に分類される。 (製品データ)は、(分類できない)に分類される。
特定標的臓器毒性 (単回ばく露):	(成分データ)は、(分類できない)に分類されている。 (製品データ)は、(分類できない)に分類される。
特定標的臓器毒性 (反復ばく露):	(成分データ)は、(分類できない)に分類されている。 (製品データ)は、(分類できない)に分類される。
誤えん有害性	(成分データ)は、(分類できない)に分類されている。 (製品データ)は、(分類できない)に分類される。
備考:	(成分データ)はプロピレングリコールの参考値。

12. 環境影響情報

水生環境有害性 短期(急性):	(成分データ)は、(分類できない)に分類されている。 (製品データ)は、(分類できない)に分類される。
水生環境有害性 長期(慢性):	(成分データ)は、(分類できない)に分類されている。 (製品データ)は、(分類できない)に分類される。

13. 廃棄上の注意

残余廃棄物:	<p>廃棄においては、関連法規ならびに地方自治体の基準に従うこと。 都道府県知事などの許可を受けた産業廃棄物処理業者、もしくは地方公共団体がその処理を行っている場合にはそこに委託して処理する。 廃棄物の処理を委託する場合、処理業者等に危険性、有害性を充分告知の上処理を委託する。 特別管理産業廃棄物のため、廃棄においては特に「廃棄物の処理及び清掃に関する法律」の特別管理産業廃棄物処理基準に従うこと。 本製品を含む廃液及び洗浄排水を直接河川等に排出したり、そのまま埋め立てたり投棄することは避ける。</p>
汚染容器及び包装:	<p>容器は清浄にしてリサイクルするか、関連法規ならびに地方自治体の基準に従って適切な処分を行う。 空容器を廃棄する場合は、内容物を完全に除去すること。</p>

14. 輸送上の注意

国連番号: 無し	クラス: 非危険物	容器等級: 非該当
国際規制		
海上規制情報	非危険物	
航空規制情報	非危険物	
国内規制		
陸上規制情報	非該当	
海上規制情報	非危険物	
航空規制情報	非危険物	
特別の安全対策	輸送に際しては、直射日光を避け、容器の破損、腐食、漏れのないように積み込み、荷崩れの防止を確実に。重量物を上積みしない。	

15. 適用法令

法律	主な項目	プロピレングリコール	
労働安全衛生法	名称等を通知すべき有害物(法第57条の2、施行令第18条の2別表第9)	非該当	
消防法	第4類引火性液体 第三石油類水溶性液体	○	
化学物質排出把握管理促進法(PRTR法)	第1種指定化学物質(法第2条第2項、施行令第1条別表第1)	非該当	

16. その他の情報

参考文献

- 1) 安全データシート「プロピレングリコール」(安全衛生情報センター)
- 2) 原材料のSDS
- 3) 「化学物質等の表示・文書交付制度のあらまし」(厚生労働省・都道府県労務局・労働基準監督署)
- 4) 「危険物船舶運送及び貯蔵規制(12訂版)」(国土交通省海事局検査測度課 監修)
- 5) 日本規格協会(JIS) JIS Z 7252:2019 (GHSに基づく化学品の分類方法)
- 6) 日本規格協会(JIS) JIS Z 7253:2019 (GHSに基づく化学品の危険有害性情報の伝達方法)

本データシートは、化学製品の工業的な一般的な取り扱いに際しての安全な取り扱いについて最新の情報を集めたものであるが万全ではない。新たな情報を入手した場合には追加又は訂正されることがある。

化学製品に他の化学物質を混合したり、特殊な条件で使用するときは安全性の評価を実施すること。

本データシートは保証値ではない。